

幼 児 問 題 を 語 る

日 時・3月31日 午後5時

場 所・東 中 野・モ ナ ミ

出 席 者 (イロハ順)

厚生省児童局保育課長

吉 見 静 江 氏

文部省初等教育課長

大 島 文 義 氏

東京都教育庁指導主事

山 村 き よ 氏

全国私立幼稚園協会理事長
日本保育連合会副委員長

青 柳 義 智 代 氏

東 京 都 技 師
日本保育連合会副委員長

秋 田 美 子 氏

台東区江東橋 保育園長
日本保育連合会常任理事

鈴 木 と く 氏

お茶の水女子大学
東京女子高等師範学校 名誉教授
本誌主幹

倉 橋 惣 三

幼児問題の奥にあるもの

倉橋 本日ワザ／＼御あつまり願いましたのは、御案内申上げてありますように「幼児問題について」——幼児期の問題についてそれ／＼の方面の中心権威の方からいろいろとお話ねがい、これを「幼児の教育」五月号に掲載させていたゞきたいと思うのであります。本日おあつまり願いました方々は、現在の日本の保育界にとつては一寸仲々、これだけの方々が一緒におあつまり願うという事がむづかしい位の方々です。キツトい、お話が伺えると思います。そこで打ち明けた企画を申し上げますと、すでにこれは皆様もよく御承知のように当面の御関心の中心である幼稚園と保育所の問題、これを一体どういう風に考えて行つたらいいかという事があります。私自身の考え方から申せば、私は、幼稚園とい、保育所ということも、凡てはこれ日本の幼児期に関する関心の一つであると考えます。そこで本日は、幼稚園であるとか保育所であるとかの分け方をしないで、成程施設としては各自別箇のものにはなっているけれども、それを

一括して「幼児問題」という事についての一つの関心、共同の関心と考えてお話をすゝめて行つて載きたいと思ひます。そしてその中に実際として幼稚園であり、保育所である問題についてのお話をうけたまわりたい。こゝで幼稚園と保育所の綱引きや腕押しをするつもりもないし、又そういう事は意味のない事だと思ひます。広く一般に「幼児問題」の奥にある、基礎になる意味合でおはなし願ひたいと思ひます。でありますから議論もそれにむすびついて、そこにおちて行く、そこに消化されて行くものをもちたい。皆様にもこういう意味はよく御諒察いたゞける事と思ひます。もつと神経質にいえば、今晚の座談会の記事は「幼児の教育」に出ますが、「幼児の教育」を出しているところが幼稚園協会である。すると今日の話も、幼稚園が中心でなければならぬように思われるが決してそういう事ではありません。これはお断りするまでもないのでありますが、こういう御諒解を願つておいて話をすゝめたいと思ひます。

そこで、まづ昨年厚生省の吉見さんがアメリカに行かれて色々あつちの模様を見て戻られました。すでにその話はきかれた人もある

かも知れないが、こゝでまづ御一緒にその話をきいて、それを皮切りとして話をすゝめて行きたいと思う。吉見さんどうぞ

何から何までうらやましい

吉見　あまり時間ありませんので、その話はしない方がよくはないかと思ひます。が、折角ですからごくカイツマンデ申上げの事にいたします。私は向うで幼稚園は二つ程、保育所はいくつも、いわゆるナーセリー・スクールも見ました。しかもどこもそうちがわなないという感じがしました。幼稚園は学校の中に入つて学校についています。様子も学校に近い、独立の建物はありません。多少はちがいますが、全体的にどこへ行つても、私共が日本の現状においてあゝしたい、こうしたいと思つている点、悲しんでいる点に向うにはない。

又日本では子供たちをあゝいう風に、こういう風にと色々考えて私共にあせつていますが、そういうものが向うにはありません。結果など気にしないでノビノビとやつています。そういう向うの子供たちを見てそれから日本の子供を見ると、何かお正月の子供とい

う感じがいたします。どういう風に子供をカザリツケしようかという事で日本の先生方は苦労している。向うでは子供を好き放題にさせておいて、そして見るのを見ていますから本当の意味の教育という事が出来るのだと思ひます。私の多く見たテキサス州はアメリカの中ではあまり教育の進歩したところではありません。しかもそうでありました。この前はニューヨークとかボストンとか進んだところを見ましたが、今度は逆なところを見たわけですが。全体として乱暴な遊び方、気の大きい遊び方、大きなものを動かす遊び方をさせております。あまり細い事はやらせていない。玩具なんか同じようなものが沢山あります。そしてどれも壊れてません。なくならないかと心配するがなくなる事はない。どうしてこういう風に行くか——これは一つには日本の貧しさだと思ひます。一つはものがあつて、それを触れないで眺めていなければならぬ日本、それからみると実にうらやましい限りです。何でも子供を満足させるに足る数がある。その点要らざる先生の苦心や苦労がないのです。子供も壊さない、なくさないという事をよくわかつています。一つのも

のを持つて来てつかうと又チャント元の場合に戻しておく、誰れも何とも言わない、先生もおしまいにはしまいますが、口やかましくはいいません。

それから先生の声が非常に低い。これは人数が多くないという事からだろうと思うのですが、小人数ですからドナラずとも整理がつく。また子供を無理に引つばらない。むりを

しません。日本で自由保育という事が問題になるのが、不思議と思われる位、向うでは問題になりません。保育所の子供は一日長くおります。朝早くから六時半頃までいます。オヒルネも是非必要です、しかし家庭教育もそうなっているでしょうが、世の中全体にヒルネの習慣があるせいか、日本の先生方のようにそのための苦勞がいません。それから喰物、これは日本の子供たちを本当に不幸だと思つた事です、向うの子供は本当にいいものを、決して贅沢という意味ではなく、牛乳などもフンダンといつていい位に、大抵一日三度はのんでいます。日本では朝だけ。ジュースはこれはそこも真似が出来ないと思つたんですが、どこの幼稚園、保育所を行つてもこれ位のコップで毎日のんでいます。これで

はい、身体が出来るはずだと思ひました。パシも沢山に、それもマーガリンなんかでない、本当のバターをつけて喰いたいだけ喰わしています。その外に野菜が三品、とにかく世の中全般的常識が、子供にいいものをこういうように与えるべきだと、この辺に揃つてゐるのがうらやましいと思ひました。家庭と専門家の間に開きがありません。

「教育」と「福祉」の協同

大島 今のお話を伺つて、小学校教育を視察して来た人の話と一致します。とにかく板についているという感じがです。小学校を見て来た人の話とも一致します。幼稚園と社会と小学校とのむすびつきが突に完全に行つてゐる。うらやましい限りだ。

倉橋 お話をきいていて殊に社会が金をかけて一生懸命にやつてゐるところが打たれる。

そこで我國では社会通念上は幼稚園と保育所とを一応別箇のちがつたものとし、力を入れる方でも一つは熱心に、一つはそれ程でもないという事があるが、向うではどうですか。

吉見 幼稚園に行く子供は年令がハツキリしております。それが朝全部保育所に来る。

そこから幼稚園に行くものは行く。幼稚園と保育所と各々やるべきことをハツキリ意識して分担しているという形です。それが極く自然に行つてゐる。

倉橋 肩を並立て、「教育」とか「福祉」とかいわんのですね。私の見たところもそうでした。保育所はその子の饑家、生活の場所という感じです。

吉見 アメリカでは幼稚園と保育所は年令的にはハツキリわかれていますが、それをとこによつて保育所一本でやつてゐるところもあります。そういうところでは、時間的に一日中あつかつて貰う人は、幼稚園に行かぬという事があります。そういうところは幼稚園のない土地でして、子供は境遇上幼稚園に行けないという事になる。

大島 ナーセリー・スクールは日本の何に当るんですか。

吉見 ナーセリー・スクールはキンダー・ガーデンより年令が低い。満五才以下がナーセリーです。日本ではデー・ナーセリーといふのは年令が広い。又ナーセリー・スクールはそう沢山ありません。大学のチャイルド・デベロプロメント・コースに附設しています

が、そう沢山はありません。

幼稚園・保育所の區別

倉橋 ところで我国で学校教育法の中に規程されている幼稚園というのは、その趣旨は大いに諒解するが、その場合に幼児のウエルフェア（福祉）という事はどうなるのか、学校というのもウエルフェアの一つと考えられるし、又教育なきウエルフェアというものは考えられないけれども、学校教育法の中にある幼稚園というものは、ウエルフェアという事を当然の仕事と考えているのでしょうかね、大島さん。

大島 只今のウエルフェアという意味ですが、とにかく幼稚園というものは、一つの教育系列の中にあるけれども、一日中あつかうわけではなく、時間が決つております。その間に出来るだけの範囲でウエルフェアというものを考える。それ以外に考えるという事は出来ないのではないかと思います。

倉橋 出来るだけせねばならないけれども出来ない。ところでそれらの点は幼稚園、保育所の現在では法規的にどうなつてますか、アメリカでは生活の実際上、差別がついてな

いでしよう。幼稚園だから福祉をかえりみない。保育所だから教育しないという事はないでしょう。

吉見 そういう事は問題ありません。従つて幼稚園の保育所化とか保育所の幼稚園化というような言葉もありません。

山村 それは日本ではこういう事があるんぢやないかと思ひます。一つには幼稚園が学校教育法の中に入つたという事で、それを無理につきつめたいという人があるのではないか。ある人が「保育」という言葉は、児童福祉法で決めたのだから「保育要領」の中では「保育」という言葉を使つちやならないのだといつてましたが、――

倉橋 厚生省の方で新しく「保育指針」というものを出されるそうだが、内容はどんな事ですか。

吉見 「保育指針」ではこういう事をせねばならないという事は書いてありません。そういう事を一応常識的にわかる程度の指導書です。そうした線にそつて齋藤（文雄）先生牛島（義友）先生、堀（要）先生、高島（巖）先生などのお力をかりて施設の保母の手引とという意味でつくりました。

山村 一応前の「保育要領」の中に幼稚園の一日、保育所の一日というのがありました

が――

吉見 一日のプログラムはあります。

山村 幼稚園と保育所の區別がハッキリあらわれてますか。

吉見 基本的なものはそう違つておりません。

山村 コース・オヴ・スタディのようなものですか。

吉見 私の方は子供の扱い方を主としております。運営の方の型は前の通りですか、急いで使わなければなりませんので子供の扱い方を主としています。

メソッドとしての幼稚園教育

青柳 吉見先生にお伺いしたいのですが、日本では幼稚園と保育所との區別がちゃんとあるけれども、アメリカではそれ程でない、日本ではその間が混乱していて、又はトカク角をつきあわせているといった状態で、実にうらやましい。そのアメリカにおいて幼稚園と保育所がおの／＼夫々の使命を果たして衝突していないという、その保育所の在り方と

いうものを御説明ねがいたいのです。さつき一寸アメリカの保育所の第一義的な使命は家庭における施設幼稚園は教育の場におけるものであるという様なお話だったが、そう考えてよろしいですか。

吉見 そう考えていゝじやないかと思ひます。

青柳 型式的には保育所は家庭教育の場、幼稚園は教育の場ということですね。

倉橋 私がアメリカにいた頃ナーセリーの中でキンダーガルテン・メソッドを用いる時があるという事をきいた事がある。

吉見 これはこの前に行つた時の事で、その中二時間ばかりモンテッソーリ教育の先生がくるという事がありました。そして子供達を二三時間教育して行く。そういう事はやつておりました。二三十年前の話ですが、そうなる問題は一応ハツキリして来ますね。

倉橋 メソッドというならばハツキリしているが我国では施設の観念である。そこでいゝろ／＼今までは伺ひした事について、今の日本の現状で、現在ある姿のキンダーガルテン・保育所の姿、これについてどうもあつた

いこうもしたいということについて個人々々には色々な考え方はありましようが、一つ大島さんにお話し願ひたい。理論的ではなく、實際的に国としては幼稚園というものをどういふ風にあらしめたいとお考えになつておられるのか。こうもあらまほしけれといつたところを一つ

学校教育の始期の問題

大島 これはどうも大変大きな問題でして福祉という事も勿論大いに大切であるが、幼稚園では教育を充分与えたい。学校教育前にいゝ環境を与えたいと考えております。しかるに幼稚園の数は現在すくない。分布状態も偏しておる。もつとおくの幼児をあえて幼稚園のみとはいわれないが、いゝ環境をあたえるようにしたい。それには今の幼稚園の施設をモット向上させねばならぬ。希望している子供を、出来るだけ派山入りたい。そういう風に持つて行きたい。かといつて一つ／＼が不完全な施設でも困るけれども、多数の子供に教育をうける機会を均等に与えたい。その方法は中々むづかし／＼特に財政的に困難なのではないかと考えております。

倉橋 同じくそういう意味において吉見さんからどうぞ。

青柳 その前に一つ質問が御座いますが、文部省としては幼稚園に入る子供の年令は何才とお考えになつておりますか。

大島 満三才、四才五才と考えておりますこれはなおヨク専門家の御意見をきゝませんとわかりませんが、どの学校の場合を考えても一年だけの教育は不十分だと思われまゝす。そういうことは恐らく幼児教育の場合も考えられることではないかと思ふ。文部省では先達は五才児の優先入学という事を申しましたがこれは決して一年保育でいゝといふものではありません。それに三才児四才児五才児とそれ／＼教育の方法もちがいますし。

青柳 学校体系の中に入つた幼稚園で満三才から入れるのがいゝかどうか、満三才からの学校というのはどういうものでしょうか。無理はないでしょうか。

鈴木 この間日本女子大の児玉先生に向うのナーセリーについてのお話をお伺ひしたんですが、向うでいゝスクールというのと、こちらで考えている学校というのとは大分観念がちがつているように思ひますが――

保育所の幼稚園化ということ

倉橋 只今大島課長にお伺いしたような意味で吉見課長にもおたづねしたい。アメリカを見られていろいろ御感想もあろうし、日本の保育所に対するモウ少しこうせねばならぬという事もあろうと思う。それを一つ。

吉見 理想や希望はいろいろ御座いますが本当は福祉法の精神から申せば家庭保育が最上のものです。それが出来ないから保育所に来るといふ事になるのですが、一番こまるのは一つの村一つの町に幼稚園と保育所の両方がないということです。東京なら両方ありますが、地方で保育所が一つしかない場合なんか、その一つの保育所に何でもかんでも持つて行く。そうすると保育所の方でも何でも引受けなければならぬということになります。これが所謂「保育所の幼稚園化」の原因だと思ふのです。村なら村町なら町の保育所に村長さんの子供や、町長さんの子供、その他有力者の子供が半分位来るといふことになると、本当に保育所に来なければならぬ子供は来ないという事になる。そうなるとうしてもその保育所は幼稚園化して行くという

事になります。あれは幼稚園ではないかといわれるようになる。これが両方ありますとこいう問題の起る余地は非常に少くなると思っています。

倉橋 これは幼稚園、保育所双方がもつと普及する事が大切でしょうね。そこで只今課長さんから御伺いしたが、これをもう少し現場に近い秋田、山村の両先生はどうお考えになつておられますか。

山村 必要に応じて出来て欲しいと思います。保育所が必要なところには保育所を、幼稚園が必要なところには幼稚園を、とにかくひろい意味における幼児の必要に応じて施設が沢山出来て欲しいと思います。

倉橋 秋田さんは。

山村 それが出来ない理由には集る子供が少ないという事がありますか。

吉見 財政の問題で村なら村で二つは出来ないという事でしよう。

山村 文部省から補助がない。折角教育法の中に入れて貰つたのに国から一文の補助も出ていない——

倉橋 秋田さん、どうです。

秋田 何か今日のお話、よくわかりません

がみんな痛いところを避けているように思いますが……。(笑声)

幼稚園という名稱

山村 この間松本市に行つたんですがこれはどういふ事なんだろうと考えた事がありました。長野というところは公立幼稚園が一つしかありません。殆んど大部分保育所なんです。が、保育所だのに幼稚園、幼稚園といつています。幼稚園といわしています。何故さういふかという、幼稚園といわないと子供が来ないというんです。

吉見 保育所は貧乏人の来るところと昔からいゝならわされているからでしょう。それを直すには一々訂正して歩かないといけません。

倉橋 それは村を行脚して、そういうものでないと、一々訂正して歩かんとはいかんな(笑声)

秋田 私は子供である以上は平等にとりあつかつて戴きたいと考えております。保育所幼稚園、社会、家庭の連絡はどこまでも子供を中心を考えるようにして行きたいと思ひます。施設のために子供があるのではなくして

子供のために施設があるのだという風に考えて行きたい。別段肩をいからして幼稚園だの保育所だのという事はないと思います。何でも子供を中心に考えて行つたら万事ウマク解決して行くのではないかと思うのですが。どんな法律もどんな施設も子供の必要に應じたもので子供をひとしく平等にとりあつかうという建前だと思うのですが――

倉橋 それに関連しての話ですが、保育所に行つてゐる子供は肩身がせまいというような事がありますか。

秋田 このごろはなくなりました。

吉見 なくなりましたか。

鈴木 東京ではそういう事は全然ないといつてよいと思います。地方の事は存じませんけれど、

秋田 託児所といわれていた時はイヤでした。今は保育所といつても卑屈な感じがしません。しかし幼稚園という言葉はうつくしい言葉だと思ひます。子供があつまるところにふさわしい言葉だと思ひます。

吉見 あの位の人数の子供があつまると自然に幼稚園といわれますね。

秋田 子供自身には保育所も幼稚園も区別

はないのです。そういう事は違法であるとかないとかいう事は別ですけど、使命を自覚しておれば名称などはどうでもいい、という気がします。

現実における幼稚園・保育所

倉橋 鈴木さん、今のお話のような事をもつと狭く(地域的に)本所(鈴木氏は台東区江東橋保育園長)の方から見られるとどういう事になりますか。

鈴木 私、さつき吉見先生から保育所にいる子供が近くに幼稚園があるとそこに行くというお話を伺いましたが、そういうものが近くにない時には、保育所の中でそれをやらなければならぬと思います。日本では色々な事情で保育所の中で、幼稚園教育をやらなければならぬ場合があるのではないでしようか。保育所の中にはたしかに幼稚園の時間というものがあります。それが表面化して、「保育所の幼稚園化」というような事をいわれてるんですが、私はそういう意味での「保育所の幼稚園化」という事は、日本のような国情ではまぬがれないと思うのです。

吉見 「幼稚園化」というのは主として保

育時間の短縮という事ではないでしようか。内容的のことまで行つてますか。

鈴木 内容的にもいわれています。大体託児所は歴史的には大工業都市に生れたものですが、中小工業都市では幼稚園でも間にあいます。ところがその後中小工業都市にも保育所がずい分殖えました。あまりお役所の方からやかましく言われると、私自身本当にどう考えたらいゝのかわからなくなる――

倉橋 私は今は實際の持ち場をはなれていますから何も知らないけれども、幼稚園の方でもそういう事「幼稚園の保育所化」という事があるようです。どつちにしたところで別に両方から叱られる事もあるまいと思ひますか――

鈴木 日本の現実的な生活程度というものは、保育所に子供をやるという程度の生活程度が大部分じゃないでしようか。

倉橋 私が自分の孫をどこかへ入れようという時ですね。どこへ入れようか、幼稚園へ入れようか。保育園に入れようかと考えたとする。その場合私は国税を出してその国税のお世話になるのはすまん事だと思ひます。それで自分の孫は幼稚園に入れて、保育所に来なけ

ればならない人に席をゆづる。日本人の親としてこういう意識をもつという事は何んのものでしょう。

鈴木 先生のような考え方は本當と思えます。本當にそうみんなが考えてくれるといふんですが、實際はソウいう風には考えないんじゃないでしょうか。

倉橋 幼稚園、保育所を建てる方ではいろいろな理由、いろいろな解釈から建てる。入る方で幼稚園がないから保育所をお願いするといふのはまだいい。しかしそういうところに入園資格がないのに入りたいというのは、何でもかんでも人まかせという悪い習慣だと思ふ。ところで最後に結びとして青柳さん一つ。

青柳 私はさつき秋田さんがいわれたように、幼稚園も保育所もそれ／＼子供の必要に応じて双方共沢山出来ればよいという事はのぞましい。又二つのものがお互に妙な対立感情を以て、やつてゐるのがいかん。これもよくわかります。それから吉見さんがいわれたように幼稚園と保育所とはちがうものだが、貧乏困だからというのもわかる。だが今日、幼稚園と保育所が本當にお互にうまく行つてい

ないという事があるとするならば、それは立案した人の責任だと思ふのです。学校教育法児童福祉法を立案した人の責任という事が問われなければならぬのじやないかと思ふ。

大島課長も吉見課長も、共に立案の責任者といふのではないから、お二人にどうこういつてもはじまらないが、大体こういう法律をつくる時に、夫々の使命に対する認識に混乱があつたのではないか。二つの法律が混乱してゐる。混乱があるからその二つの法律に従つて仕事をしている人達が、自分の仕事についてアイマイな觀念しか持つていない。私は学校教育法が出来た時文部省へ行つて、保育所の方と相談したのかという事をききました。してないといふ。児童福祉法の時も文部省に行つて相談したといふ事はきかない。最初から関係当局たる文部厚生両省の間で何の協議も話しあいもされてない。ハッキリいふと法律が出て、施設がつくられた。これでは混乱してしまふに決まつています。今日、こういう座談会が開かれなければならぬといふ理由もそういうところにあるのだと思ふのです。

吉見 例えばどのようなことですか。

青柳 保育所は家庭教育に代る場所、教育は幼稚園にさせるというようにハッキリ決めておくべきであつた。それを何ら法律をつくる時に、お互に相談してない。私は實際に文部省と厚生省でこの事をきいて来たのだから間違ひはない。

倉橋 まだいろいろと大切な問題が沢山のこつておりますが、本夕は少々時間を遅れて開会しましたため、大分時間も経つたようので御座いますから、これ位で閉会にしたいと思ふいます。どうもありがとうございます。

(記録責任者 西山浪太郎)

附記——本稿は締切期日切迫のため、記録後、御出席諸先生方の御校閲を経ることなく掲載いたしました。従つて内容については勿論、その誤記、脱漏等の責任は一切記録者にあります。